

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：

科学を変えるデータジャーナル

ー科学技術データの共有・再利用のための新たなプラットフォーム構築に向けてー

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

なし

3 開催日時：平成27年3月4日（水） 10時30分～17時30分

4 開催場所：日本学術会議講堂

5 開催趣旨：

データ共有・再利用の本格化時代に臨み、データを価値に展開する“データ力”が問われている。国際アカデミー及び G8 等政治の場ではデータに関する議論が積み重ねられ、オープンアクセス、オープンデータ、オープンサイエンスへの動きが推進されている。学術が大きく変わろうとしている。

そうした状況の下で、従来からのデータベース専門家を中心にした大規模なデータベースやアーカイブの構築の活動ではなく、データの生産者、データ専門家、そしてデータの利用者が連携して科学技術データの拠点を構築するための新たな方法としてのデータジャーナルの発刊が始まっている。将来、データジャーナルは、オリジナル論文主体の学術誌を補完し、専門分化した学術分野のカベを超え、社会と学術とのより緊密な関係を築くための“メディア”となりうるのだろうか？

データの時代における科学技術データの活動と役割について、あるべき姿・展望を明らかにする。

6 参加人数：

講演者等：20名

その他の参加者：110名

7 特記事項：

情報学委員会国際サイエンスデータ分科会を中心に今後の日本のデータ活動についての提言をまとめることが確認された。「学術の動向」には、学術フォーラムでの議論を踏まえて特集を提案したい。国際的な連携を視野に入れたフォーラムで、新興国を代表して K.Lal 博士、先進国を代表して P.Uhlir 博士、国際商業出版を代表して Nature 関係者からの発表があり、日本国内から組織や学術分野を代表する識者からの発表があり、我が国からの具体的なアクションにつなげることが期待されている。